

わたらいクリーニングコミュニティスペース整備

現状 – まちなかの魅力再発進

沼津駅周辺では、以前のように魅力ある商店が減ってきてしまっている。インターネットの普及や郊外大型商業施設により、まちなかでの購買意欲がなくなっているため、まちなかでの「コト消費」ができる場を作ることで、まちから離れてしまっている若者を増やす。また、昼間の商店街にヒトが集まる場所をつくり、地域コミュニティの再生に取り組む。

目的 – 多世代が集まるコト消費ができるコミュニティスペース

沼津駅北口の商店街一画にある、元クリーニング店を活用し、コミュニティスペースとして整備し、若い人たちがまちなかに来るきっかけを与え、周辺店舗と若い人を繋げる場及び観光拠点をつくる。また、平日昼間に地域の方が利用出来るシェアキッチンを行う事で地域コミュニティの再生を行う。

活動 – 多世代関わった愛着ある場づくり

【4月】

コロナ過にて施工中断。不定期にて店頭で地元の愛鷹山麓野菜生産者と共同で無人販売を開始。随時状況をみながらの施工を進めた。

【7月24日、9月18日、10月5日、各日16時～20時】

コロナ過での「道路占用許可」の緩和制度を利用し、近隣店舗と協力し仮設のテラス席を設置。施工途中である店内をフリースペースとして開放し学生、親子などの交流に寄与。

【11月～3月】

本格的な施工再開。内装工事、キッチン・カウンター工事など少人数単位で子どもや高校生、主婦、移住者などの参加者と施工ワークショップ行う。

【3月30日】

プレオープン。



振り返り・課題 – 求心力を高める「仕掛けづくり」

引き続き、近隣店舗と共同でコロナ過でのコミュニティスペース運営を模索していく。タイミングをみて、キッチンを開放しながら求心力を高めることで、宿泊事業を進めていく。また、ワーケーションなどフレキシブルに対応したコワーキングスペースも視野に入れながら今後も活動を行っていく。また、持続可能な活動にするために事業としての体制を整える。

コロナ禍でスケジュールを上手に組み立て直せなかったのが反省点であるが、野菜の無人販売や道路占用許可を利用し「コミュニティスペース」としてのきっかけをつくれた。

施工再開時にワークショップ形式で幅広い世代に参加してもらうことで、オープン後の利用に繋がる雰囲気をつくれたのは良かった点だと考える。